

オープンアクセス<sup>1</sup>

# NPO の運営と実際(5)

柴田 晋平

概要 任意団体から NPO 法人になって面倒なことは毎年報告書を出す義務が発生することです。その中でも会計報告が一番面倒なものの一つです。なぜかというところには馴染みのない複式簿記による報告が義務付けられているからです。私たちの NPO はお金もちではないので会計の専門家を雇うこともできません。会員自らが会計報告できることを目指して、今回は複式簿記の原理を説明します。

## 簿記は理科系？

簿記というところから経済、文系のイメージがあるかもしれませんが、考案者はルカ・パチョリー(1445-1517年)で数学者です。もしかしたら簿記は理数系の得意な人向きかもしれません。

ここで紹介するように、基本原理はとても簡単ですのでこの機会にマスターしましょう。一方、商業簿記、工業簿記とかいろいろ種類もありますし、検定なども簿記3級、2級、、、とかランク分けもあって難しそうにみえますね。これはもともとの原理だけでは記載の任意性があるって、その任意性をなくすために法律などで統一していることに原因があります。確かに、課税対象額を確定したり、企業の評価を公平にするには統一性が必要です。統一のためのたくさんの規則を覚えるためにたくさんの資格試験があるのです。しかし、NPO 法人としてやっていくための簿記であれば資格・検定など全くなしでもなんとかやっていけます。

また、会社やお店でやっている簿記と NPO の簿記とは異なる部分があります。NPO 法人会計基準(<https://www.npokaikijun.jp>)というのがあって、この内容は普通の簿記の検定試験ではカバーしていません。私自身、この基準は完全にはマスターしていません。NPO 法人小さな天文学者の会を運営するにあたって最低限のところを抑えたのみです。それでも法律に定められた NPO 法人としての決算書類は作ることができています。そこを抑えようというのがこの文章の目的です。

## NPO の評価ができるように

NPO がうまく運営されているかの評価は年次報告を見ればわかるように思えますが、実は決算書を見るとそれ以上にとってもよくわかります。この NPO は誰によって支えられているのか？どんなサービスをどれくらいのパフォーマンスで提供しているか？など数値的に把握できます。NPO の評価には決算報告は必須です。

1



この記事は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づくオープンアクセス記事です。引用の際は、著者名、題目、本会報名、No.ページを明記ください。

## お小遣い帳ではだめ？

現金出納帳を正確につけて、年度末に収入と支出をみていけばいいんじゃない？と思うかもしれませんが、現金出納帳(お小遣い帳)では正しく財政状態を把握することはできません。このことを一つの例でみてみましょう。年度初めが7月1日で年度末が翌年の6月30日とします(小さな天文学者の会の会計年度にあわせました)。

日付	適用	収入	支出	残額
2023/7/15	会費 1	18,000		18,000
2024/6/10	会費 2	6,000		24,000
2024/6/20	印刷代		20,000	4,000

右のお小遣い帳を順番に見てみると、7月15日にこの年度の会費(年会費3,000円で6人分)18,000円の収入がありました。繰越金はないとしてお財布の中には18,000円ありますね。翌年の6月10日に年度の終わりが近づいて2人の会員さんが翌年の会費を納めたので6,000円の収入がありました。お財布のなかには24,000円になりました。PRのパンフレットを作って配ることになり、印刷代として20,000円支払いました。ちょっと高いと思ったけどお財布に24,000円あるので払えるので払いました。

お小遣い帳ですと年度末の残金は4,000円の黒字です。しかし、6月10日の会費は来年度の会費ですのでこれは来年のために取っておかないといけないお金です。簿記の考え方ですと、この会費は収入にはしないで「前受会費」として扱うのが正しいやり方になります。実際のこの年度の収入は18,000円のみで、支出は20,000円ですので、2,000円の赤字が決算結果になります。

単なるお小遣い帳だけではうまくいかないことがわかったでしょうか。

## 二つの表

複式簿記の基本となるのは二つの表です。一つ目は**貸借対照表(Balance Sheet)**とよばれるもの、もう一つは**損益計算書(Profit and Loss Statement)**とよばれるものです。これは商業簿記の用語ですが、NPO簿記では損益計算書は**活動計算書**と呼ばれます。

二つの表の大きな違いは、貸借対照表はある日、つまり、ある一点の時刻についての表で、損益計算書の方は、ある期間に関する表です。この違いから、これらの二つの表は性質が全く異なる表であることが察せられますね。

まず、簡単な貸借対照表の方から理解しましょう。この表は、**資産**と**負債**と純資産の三つの要素からなっています。NPO簿記では純資産とは呼ばず、**正味財産**と呼びます。資産の一番簡単のものは「現金を100万円持っている！」というようなものです。しかし、そのうちの70万円は借金だとすると本当は30万しか正味財産はないわけですね。貸借対照表はこんな感じですよ：

貸借対照表(2023年7月1日)

資産：現金	1,000,000	負債：	700,000
		正味財産：	300,000
それぞれの合計			
	1,000,000		1,000,000

貸借対照表の左側の合計と右側の合計は等しくなければなりません。今の場合は上のように左側も右側も合計は100万円です。

一年が経過してもう一度貸借対照表を作ったとします。

貸借対照表(2024年6月30日)

資産：現金	1,000,000	負債：	400,000
		正味財産：	600,000
それぞれの合計			
	1,000,000		1,000,000

貸借対照表は年度の始まり(期首)と終わり(期末)の2回作って比較することで、正味財産の変化をみることができます。この例だと、正味財産は30万円増えていますね。つまり、今期は30万円の黒字です。現金は同じですから、30万円借金を返済しているのが正味財産の増加分になっています。

貸借対照表は作成が簡単で間違いを起こす余地がありませんので、私が会計を担当していたころは、まず最初にこれを作っていました。このあと説明する活動計算書(損益計算書)を作らなくても、この期が黒字か赤字かがすぐにわかります。

次に、実際に収入がいくらでいくら使ったかという動きをまとめたものが活動計算書(損益計算書)です。例えば、イベント参加料収入が40万円あり、イベント開催費が10万円かかったとすればこんな感じになります。

活動計算書(損益計算書)

2023年7月1日から2024年6月30日

費用		収益	
イベント開催	100,000	参加費	400,000
当期純利益	300,000		
それぞれの合計			
	400,000		400,000

見てわかる通り活動計算書は、費用、収益、当期純利益の三つの要素から成り立っています。NPO会計では当期純利益とはいわないで正味財産増加額と表記します。この表も、左側の合計と右側のそれぞれの合計は一致します。貸借対照表の比較で30万円の黒字であることはわかっていましたが、活動計算書でも当期純利益(正味財産増加額)は30万円になっていて、両者は一致しています。この一致が見られない時はどこかで計算間違いしています。

借金を返しているのですがそれは活動計算書には関係しないので見えていません。損益に関わる重要な部分だけがよくわかる表になっています。でも、初めて見た人には不思議な結果かもしれませんね。

ここまでのまとめとしては、二種類の表があって、枠は4つあります。そこに入っている数字は活動の大きさが大きいと大きい数字が入っていると思います。また、正味財産と正味財産増加額は

## 読者投稿

NPO 法人自身の大きさや発展性を示唆しています。

まとめの重要な表：四つの項目として資産、負債、費用、収益があることを覚えましょう。

貸借対照表	資産	負債 正味財産
活動計算書	費用 正味財産増加額	収益

## 仕訳

この二つの表をがっちり作っていくのが複式簿記をつける仕事になります。具体的には、貸借対照表の資産と負債、活動計算書の費用と収益の4つの箱を準備しておいて、ことがあるごとに各箱に入っている金額を動かしていきます。箱は大きくは4つですが、現実的には小箱も作っておいてわかりやすくします。小箱の名前を勘定科目とよびます。例えば、資産は、流動資産の現金という箱、流動資産の〇〇銀行普通預金という箱などが考えられます。固定資産というのもありますが、私たちの NPO では必要ないでしょう。箱がいっぱい出てきて名前を毎回書くのが大変な時や数式で書きたくなることもあるので、私は次のような記号も使うことにしています。資産は Asset で a1 は現金の金額、a2 は〇〇銀行普通預金といった具合です。負債は Liability なので L1 や L2 など、費用は expense なので e1, e2 など、収益は revenue なので R1, R1 なのです。

では、具体的に小箱の数字をどのように動かすかをみていきましょう。

(例1、会費納入)

A さんから当該年度の会費 3,000 円が現金で納められたとします。このように一つのできごとがあると必ず二つの箱を呼んできて箱の数字を動かします。今の場合ですと、資産の中の現金の箱と収益の中の会費収入という箱を呼んできます。そして、現金の箱の数字に 3,000 円を加算し、つまりお財布の現金が 3,000 円増えたということですね。もう一つの箱、会費収入にも 3,000 円加算します。この操作を仕訳(しわけ)と呼びます。どの二つの箱を呼んで来るかを明示するために以下のような表を作ります。

### 仕訳

(借)現金 3,000 (貸)会費収入 3,000

簿記の教科書を見ると、左側を借方、右側を貸方と呼んでいます。それで上の表でも(借)(貸)と書いていますが、この言葉自身はどうでも良いので、私は面倒なので左と右とだけ呼んでいます。二つの箱を持ってきたのですが、その箱が貸借対照表と活動計算書のどことどこに位置するかを知っておくのが非常に重要です。いまは資産の箱と収益の箱の数字を動かしましたね。

貸借対照表	資産：現金	負債 正味財産
活動計算書	費用 正味財産増加額	収益：会費収入

いろいろな出来事(取引)について例をあげますが、その時、どんなふうに箱の中の数字が動くかを観察してください。ここが実務的な部分であると同時にロジックが楽しめる部分です。実に複式簿記が巧妙であることを感じる醍醐味はここからです。

(例2、来年度会費が銀行に振り込まれた！)

これは振り込まれたお金は一時的に預かっているお金で、負債の中の前受会費として扱います。

仕訳

(借)○銀行普通預金 3,000 (貸)2024年前受け会費 3,000

この場合、資産の中の○銀行普通預金という箱に3,000円加算し、負債の中の2024年前受け会費という箱に3,000円加算します。箱の関係図は以下です。会費ですがさっきと違う箱を使っていますね。

貸借対照表	資産：現金	負債 正味財産
活動計算書	費用 正味財産増加額	収益：会費収入

(例3、1,000円買い物をした！)

買い物の場合を考えましょう。費用については事業ごとに細かな箱を作るのが便利です。天文台運営費とか宇宙講座運営費とか。この場合、現金で払うとすれば仕訳は以下のようになります。

仕訳

(借)天文台運営費 1,000 (貸)現金 1,000

ここで今までとちょっと違う計算をします。費用の中の天文台運営費という小箱には1,000円加算しますが、資産の現金の小箱の数字は1,000円引き算します。

貸借対照表	資産：現金	負債 正味財産
活動計算書	費用：天文台運営費 正味財産増加額	収益

貸借対照表と損益計算書の箱で左側同士の箱をいじっている場合に引き算が生じることを覚えておいてください。あとで自動計算ソフトを自作する時はこの点が重要になります。

(例4、星空案内人教科書を100冊買った)

例えば単価2,600円として260,000円で買ったとします。これは後々、宇宙講座受講生に売る予定です。こんなにたくさん買い物して今期は赤字だななどというのは単式簿記のイメージです。

仕訳

(借)案内人教科書在庫 260,000 (貸)現金支払い 260,000

星空案内人教科書の小箱に26万円を加算し、現金の小箱を26万円減額します。

読者投稿

貸借対照表	資産： 現金 案内人教科書在庫	負債 正味財産
活動計算書	費用：天文台運営費 正味財産増加額	収益

現金は減少しますが在庫が資産として加算されますので、資産の増減はありません。仕入れただけでは正味財産も費用も収益も何も変化しません。この年度は大赤字なんかにはならないわけです。頑張って、在庫を売りましょう！

これまでの仕分けでは、資産と収益という組み合わせ、資産と負債、資産と費用、資産と資産、という4つの場合を説明しました。もう一つよく現れるものに費用と負債の組み合わせがあります。  
(例5、謝礼を払うの忘れてた！)

講演をしてもらったとか、天文台のアルバイト料とか支払わなければならないのに年度末になって気がついて、支払いが間に合わない！とって慌てることあると思います。あるいは請求書がきているのに支払い忘れてた(まだ払っていない)というのも同じです。そのままにしておくと、今年度の費用が正しく計算されませんし、来年度払うと来年度の支出になって来年赤字になるかもしれませんね。複式簿記の場合はこんな時も心配なく計算できます。

仕訳

(借)講師料 20,000 (貸)未払金 20,000

ここで講師料という費用の箱に加算し、負債の中に未払金という箱を設けてここに加算します。

貸借対照表	資産：	負債：未払金 正味財産
活動計算書	費用：講師料 正味財産増加額	収益

お金は一銭も払っていないのに活動計算書にはちゃんと講師料が費用として計算されますので正しくその年度の収支が計算できます。後日、講師料はお支払いして、未収金を解消しましょう。このときは、

仕訳

(借)未払金 20,000 (貸)現金 20,000

現金で講師料を支払ったので、未払金の小箱から2万円減額し、現金の箱からも減額します。

貸借対照表	資産：現金	負債：未払金 正味財産
活動計算書	費用： 正味財産増加額	収益

(例6、将来の緊急時のためのお金をキープしておこう！)

何か大きな買い物のために毎年少しずつ積み立てるような場合もあると思います。負債の中に引当金という箱を作っておいてそこに加算します。そのための費用のために引当費用という箱もつくっておきます。毎年の積立すると決めた額を引当金の箱に入れます。

小さな天文学者の会でよく起こるパターンはこれくらいかと思います。どの二つの箱を取り出だせばよいか？がわかり、それぞれに加算または減算することが正しく行えれば、複式簿記による決算書の計算は楽々こなせるわけです。

では、最後に以下のような記録があったときに仕訳をして期末の貸借対照表と活動計算書を作ってみてください。ただし、期首の資産と負債はともに0円とします。

7/2 会費 3,000 円の振り込みが 10 人からあった。

7/5 振り込み口座から 20,000 円を下ろして現金にした。

8/1 ゆかたで天文台に必要な文具を現金で 2,000 円買い物した。

9/1 天文台収入が 10,000 円あった。

10/10 コルキット望遠鏡を 5 台購入した。13,000 円だった。

10/20 出前授業でコルキットを 10 台使って、依頼者から 15,000 円いただいた。(2,000 円は収入)

4/1 次年度会費として 3,000 円が 10 人から振り込まれた。

6/1 出前スタッフに謝金を合計 10,000 円支払った。

6/30 講師への支払いが 10,000 円あるのに支払っていないことに気がついた。

6/30 将来望遠鏡を買うために毎年 10,000 円ずつ積み立てることにした。

7/1 決算書を作ってください。

なお、小箱の種類(勘定科目)は以下と仮定します。活動はすべて天文台経費と天文台収益としてください。

資産 現金 振り込み口座 コルキット在庫

負債 前受会費 望遠鏡引当金 未払金

費用 天文台経費

収益 受取会費、天文台収益

を用いてください。

次号で答えを発表します。

#### 参考文献

[1] 日商簿記3級テキスト、商工会議所複利研修センター(キャリアック)発行

著者：柴田 晋平 (しばた しんぺい)

創設以来の小天会員です。星空大好き。専門は宇宙物理学。理学博士、山形大学客員教授。特定非営利活動法人星のソムリエ機構 代表理事。

shibata.shimpei@gmail.com

